

「ベテラン技術者依存」を 解消する管理術

現場のブラックボックスを組織知へ変える
技能伝承の打ち手



AI・IoT導入の影で進む、現場の「暗黙知」依存という死角

「製造ラインの段取り替えやデータの更新・変更が特定の個人に依存し、他の人には再現ができない」
そんな属人化の課題を抱えている企業は少なくありません。

課題
01

ベテランの勘による 微調整がある

標準作業手順書には基本手順のみが記載され、微妙な変更などはベテランの勘に依存している。

課題
02

不具合対応の記録が 分散している

報告書、写真、原因分析、関係者のやり取りを別々に管理しており、後から経緯を追うことが困難。

課題
03

改善活動が 蓄積されず 再利用されない

対応経緯や知見がエクセルの報告書や紙資料で完結。他ライン・他工程に共有されず、組織として活かされない。

ベテラン依存が解消しない原因

判断や対応が特定の人に集中する背景には、知見不足ではなく、日々の業務と記録が切り離されている構造があります。

原因
01

例外対応や 判断の勘所が 記録されていない

標準手順だけでは残しにくい調整方法や注意点が、ベテランの記憶や口頭説明に依存し、他のメンバーに共有されない。

原因
02

対応経緯と 関連情報が 分散している

不具合報告、写真、原因分析、関係者とのやり取りが別々に残り、過去対応を一連の流れで確認しにくい。

原因
03

改善知見を 再利用する 仕組みがない

改善内容が個別資料で完結し、次の教育や別工程で使える形に整理・更新されていない。

暗黙知を「組織知」に変える、業務管理の基本設計

現場の「生きた知見」は、記録に残らず個人に留まりがちです。
重要なのは、判断や手順の履歴が自然と蓄積される仕組みをつくることです。

設計
01

現場情報の一元化

メール、チャット、図面、手順書、写真、動画など、担当者が判断に必要な情報を一元管理する。

設計
02

判断プロセスの可視化

「なぜその対応を選んだのか」や例外対応の経緯を、後から追える形で残す。

設計
03

情報を継続的に更新

新人教育、異動者の引き継ぎ、改善活動に使えるよう、必要に応じて見直せる運用にする。

こうした運用を現場の日常業務に組み入れるシステムが必要

現場ノウハウを集約するプラットフォーム「Backlog」とは

Backlogは、チームで進める仕事の内容や担当者、進捗、関連情報を1か所にまとめて管理できる、プロジェクト・タスク管理ツールです。

製造現場・関係部門

日々の業務

設計変更・4M変更の確認

品質トラブルへの対応

設備保全・点検

改善活動・教育



経営層・管理部門

できること

進捗状況の把握

判断経緯の可視化

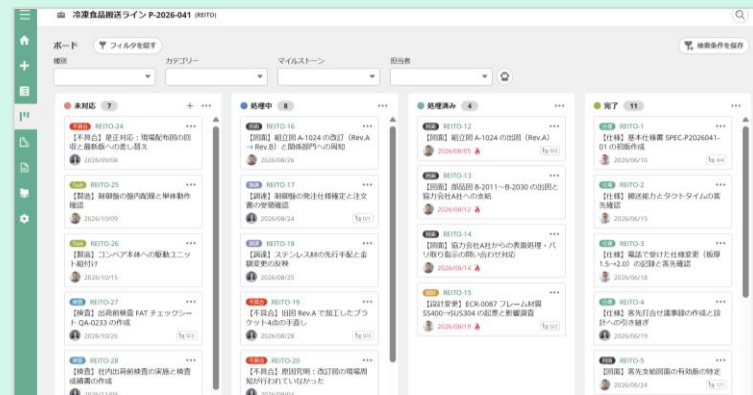
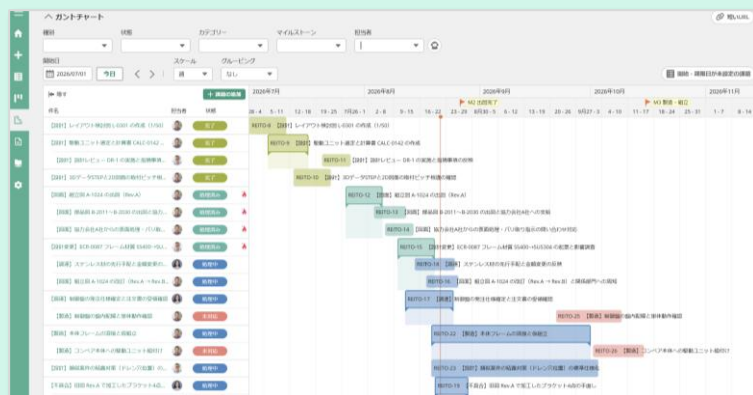
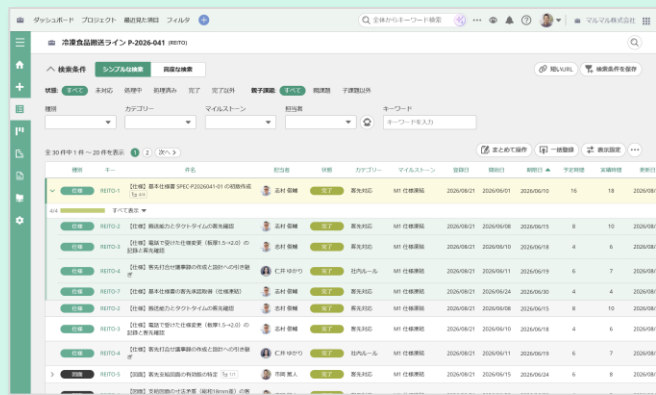
部門間での情報共有

知見の蓄積・引き継ぎ

現場の作業とその経緯を同じ場所に残すことで、個別に確認しなくても、部門をまたいで進捗や判断状況を把握しやすくなります。

Backlogでできること1：タスク・ステータス管理

製造工程ごとの業務をはじめ、不具合を「課題（チケット）」として登録・管理。
全員が同じ画面で担当者・期限・状態を一覧で確認できる状態にします。



親子課題・孫課題*

タスクの作成・割り当て・追跡を効率化

- タスクのステータス管理と優先度設定
- 担当者の割り当てと期限設定
- コメントによるフィードバックと履歴管理

*一部プランのみ使用できます。詳細は[料金ページ](#)をご確認ください。

ガントチャート

プロジェクトのスケジュールを視覚的に管理

- タスクの工程とスケジュールを可視化
- ドラッグ&ドロップで簡単にスケジュール調整
- マイルストーンの設定と進捗管理

ボード

直感的なタスク管理とワークフロー

- ドラッグ&ドロップで簡単に状態変更
- 作業の進捗状況をビジュアル化
- ワークフローの効率化と可視化

Backlogでできること2：コメント・ファイル共有

仕様や不具合対応など業務を進める際に発生する議論や判断理由を、コメント欄に直接記録。タスクと紐づいて蓄積されるため、メールやチャットを遡ることなく、やり取りの経緯をたどることができます。



コメント

タスクに紐づけてコメントを残せる

- 経緯や判断理由をやり取りごと残せる
- 関連ファイルの添付も可能



ファイル

プロジェクトごとにファイル格納

- PDF、画像、エクセル／ワードファイル等を格納可能
- 格納場所を一元化することで情報の散在を防止

Backlogでできること3：ドキュメント・AIアシスタント

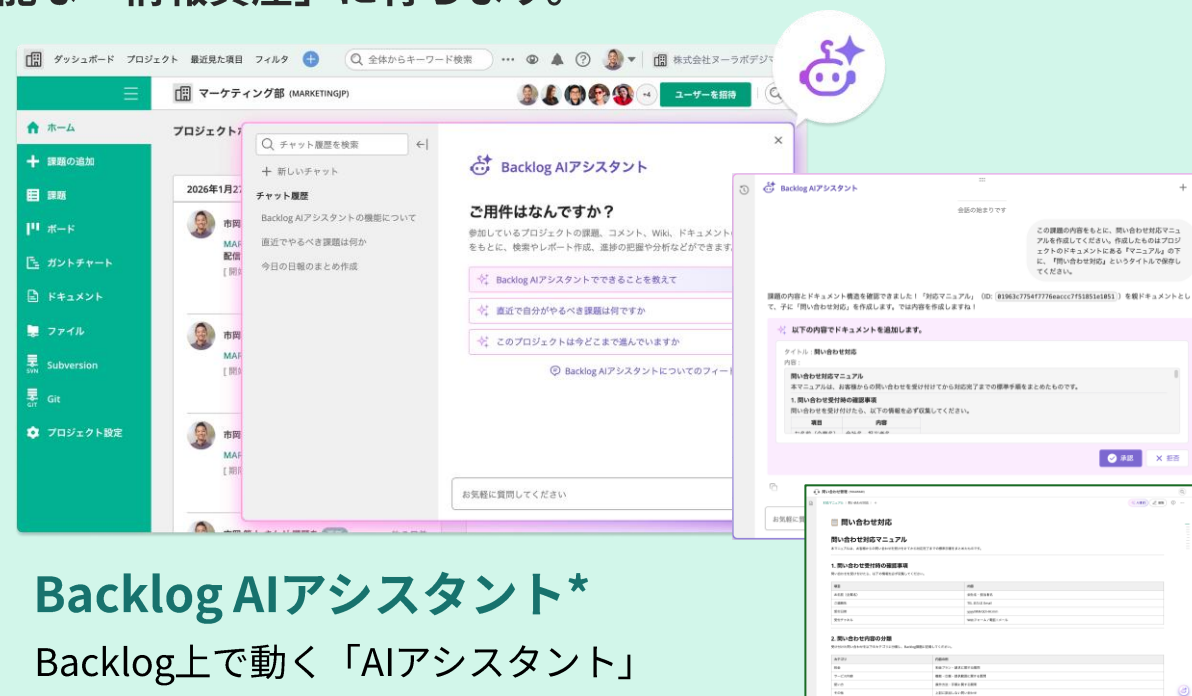
繰り返し聞かれる判断基準や対応マニュアルをドキュメントにストック。
案件の関係者全員が参照可能な「情報資産」に育ちます。



ドキュメント

チーム内での情報共有とナレッジベース構築

- プロジェクト内の知識を一元管理
- マークダウン記法でドキュメント作成
- 複数人での共同編集と履歴管理



Backlog AIアシスタント*

Backlog上で動く「AIアシスタント」

- 自社の業務の背景や文脈を踏まえてAI回答
- 専用のAIを構築せずに使える
- 過去の対応履歴を要約・検索できる

*一部プランのみ使用できます。詳細は[料金ページ](#)をご確認ください。

Backlog活用例 | 製造現場の情報を一元管理する

活用例 01

設計変更・4M変更の確認

変更ごとに課題管理でタスク化し、担当者・期限・ステータスを設定。確認内容はコメント、関連資料はファイル共有／ドキュメント機能で紐づける。



変更内容、確認状況、判断履歴を後から追いやすくなる。

活用例 02

品質トラブル・不具合対応

不具合ごとに課題管理で対応状況を整理。原因・対応内容はコメント、写真や報告書はファイル共有で残す。



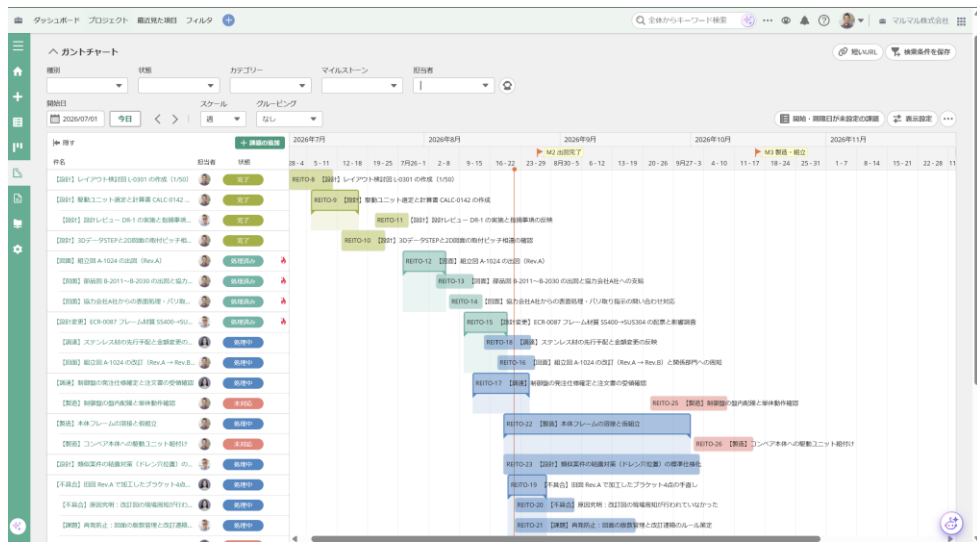
過去の類似トラブルや対応履歴を参照しやすくなる。

Backlog活用例 | スケジュールの可視化とナレッジの蓄積

活用例 03

設備保全・点検タスク

点検・修理・部品交換に関するタスクを登録し、担当者・期限・ステータスをガントチャートで可視化。

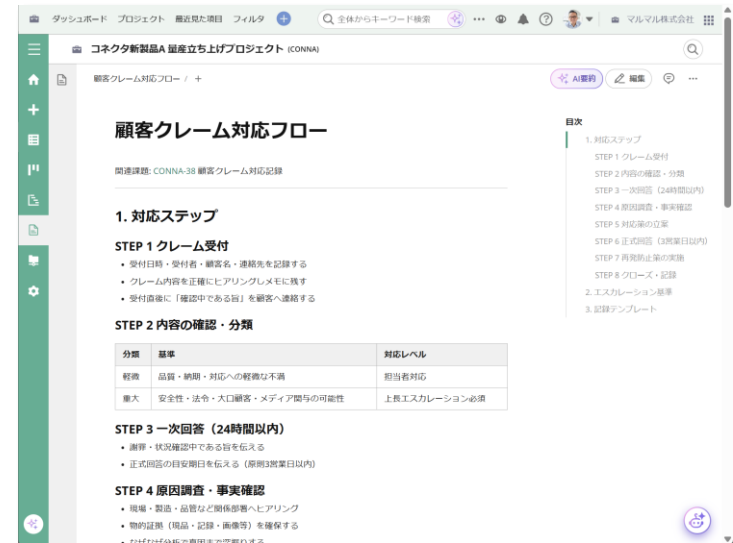


点検漏れや対応遅れに気づきやすくなる。

活用例 04

改善活動・教育

改善テーマを課題管理で進め、検討内容はコメント、手順や資料はドキュメント機能／ファイル共有に集約する。



改善活動の経緯を教育・引き継ぎに活用しやすくなる。

製造業の事例に学ぶ、属人化からの脱却

個人任せだったタスクをチームで共有できる状態に変え、蓄積した情報を次の業務に活かしているBacklog導入事例を紹介します。



Case 1

医療用品メーカー／部門横断プロジェクト

導入前

- エクセルでのタスク管理は担当者ごとにフォーマットが異なり業務が属人化。
- 全体の優先度をつける仕組みがなく、担当者不在時の引き継ぎに時間を要していた。

Backlogの使い方

- 部門横断のプロジェクトを核にタスクを一元管理。
- ドキュメントで目的や役割を明文化し、営業部門ではお問い合わせを一覧化。
- 部門長の週次報告にも活用。

導入後

- タスクの「見える化」により属人化を解消し、部門横断の連携が円滑化。
- 営業部門では担当者不在時でも他メンバーが優先度を見極め適切に対応可能となった。

[詳細はこちら](#)

[Backlog導入事例はこちらからご覧いただけます](#)

製造業の事例に学ぶ、知見を組織に残す仕組み

Case 2

アイウェアメーカー／全社プロジェクト管理



導入前

- 関係者が多く領域が多岐にわたる複雑なプロジェクトを、メールやエクセルで管理することが大きな課題だった。
- 社内外の連携でタスクの抜け漏れが発生するリスクが高く、プロジェクト進行に不安があった。

Backlogの使い方

- 揮発性の高いフロー情報はチャット、押さえておくべきストック情報はBacklogに集約。
- システム部門が定期的にプロジェクトを巡回し、リーダーは週次でタスクの棚卸しを実施。

導入後

- 全社標準ツールとして定着し、社外パートナー含め約1,700アカウント・約700プロジェクトで運用。
- 10年分のプロジェクトが会社のナレッジとして蓄積され、横断検索で過去の作業履歴を参照可能に。

[詳細はこちら](#)

[Backlog導入事例はこちらからご覧いただけます](#)

導入を支える費用設計とセキュリティ体制

全社規模での展開や中長期的な運用を見据え、投資対効果（ROI）を最大化し、組織のガバナンスを遵守するための導入基盤を提供します。

01

アカウント数に 縛られない 「定額料金プラン」*

ユーザー数に応じた従量課金ではなく、スペース単位の定額制を採用。現場の人数が増えても、協力工場などの外部組織を巻き込んでも、追加コストを気にせず全社規模で展開可能です。

02

強固なセキュリティ ガバナンス

ISO 27001 / 27017 / 27018 を取得。インフラには高可用性・高耐久性を誇るAWSを採用し、通信の全面暗号化（TLS）や24時間365日の監視体制で、社外秘の情報を厳重に保護します。

03

既存システムを 補完する 「ノウハウの蓄積」

基幹システムでは残せない「なぜその判断をしたか」「トラブルにどう対処したか」という業務の文脈をBacklogに蓄積。基幹システム単体では管理しきれない実務領域を埋めることが可能です。

*プランにより異なります。詳細は[料金ページ](#)をご確認ください。

お気軽にお問い合わせください

無料トライアルで試す
まずは使ってみる



30日間無料で試す

オンラインセミナーで学ぶ
まずは話を聞きたい



オンラインセミナー

個別相談会で相談する
相談しながら決めたい



個別相談会

会社概要

社名 株式会社ヌーラボ

設立 2004 年3 月

事業内容 チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供

- プロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」
- オンラインホワイトボードツール「Cacoo」
- 組織の情報セキュリティ・ガバナンスを強化するツール「Nulab Pass」
- ワークフロー自動化ツール「Nulab Flowbase」

本社 福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号
